

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名：

呼吸器感染症（抗酸菌症・真菌症）および慢性呼吸不全管理修得プログラム
病院名：東名古屋病院

2. 診療科（専門領域）：呼吸器内科

3. コースの概要

留学期間中、呼吸器内科にて肺結核症・非結核性抗酸菌症・肺真菌症などの感染症および慢性呼吸不全（COPD・間質性肺炎・肺結核後遺症）などの症例を経験する。

4. 短期目標

肺結核症・非結核性抗酸菌症・肺真菌症の診断および標準治療法の修得、および慢性呼吸不全のリハビリテーション・酸素管理・人工呼吸管理（特に NPPV）を修得する。非結核性抗酸菌症に関しては、治療開始時期・治療期間・治療薬・外科治療適応を十分に学び、研修後自分の病院で実践出来るようにする。

5. 長期目標

肺抗酸菌症・肺真菌症のエキスパートとして当該地域の医師に対して指導的役割が果たせる呼吸器内科医を目指す。時間的余裕があれば、地方学会での症例報告や総会での症例解析報告などもおこなう。さらに抗酸菌症指導医を目指す場合には、抗酸菌遺伝子解析方法も学ぶことができ、基礎・臨床両面でのエキスパートを目指すことができる。

6. 取得手技

肺結核症・非結核性抗酸菌症・肺真菌症の診断に関わる血清学的検査および微生物学的検査の内容を理解し、検査オーダー出来るようにする。また、各疾患の標準的治療法がおこなえるようにする。さらに副作用出現時に適切な対応が出来るようにする。また、呼吸不全管理に関しては特に NPPV の取り扱い手技を修得する。

7. 研修期間：6 ヶ月（標準治療法の修得を主に目指す場合には 3 ヶ月でも良い）

8. 募集人数：1～2 名（同時期最大 2 名）

9. 診療科の実績

主要疾患	入院数（年間）
肺結核症	125
非結核性抗酸菌症	37
肺アスペルギルス症	4
間質性肺炎	19
慢性呼吸不全	11

10. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 5 名

診療科研修の指導にあたる医師 5 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 中川 拓（経験年数 17 年）

11. コンセプト

肺結核症は感染性の問題から早期診断および標準治療法を学ぶことが重要となる。入院中の患者に発生した場合には、感染・発症拡大防止の観点から院内接触者検診の適切な施行法を学ぶ必要がある。肺結核症の治療薬は副作用が多く見られるため、副作用発生時の対処方法を修得する。

非結核性抗酸菌症はいまだ完治させうる治療薬が存在しないため、いかに悪化させないかが重要なポイントとなる。そのために、治療開始時期・治療薬選択・治療期間の設定・外科治療併用の有無を患者ごとにプログラムする必要があり、既存のガイドラインや最新の知見を組み合わせ、最良な治療スケジュールを構築出来るようにする。また、適切な説明が出来るように疫学的知識なども学ぶ。

肺真菌症に関しては、主に慢性型肺アスペルギルス症およびアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の診断治療を学び、抗真菌薬の使用法を修得する。特に作用機序や副作用の特徴を知り、適切な薬剤選択が出来るようにする。

慢性呼吸不全については、呼吸不全病態の正確な評価をおこない、呼吸リハビリテーション、酸素投与法、人工呼吸器装着のタイミングなどを決定出来るようにする。特に NPPV の導入時に重要なマスクフィッティングや圧設定などの技術を修得する。

さらに看護師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、栄養士、メディカルソーシャルワーカーと協力してチームで全人的医療を提供することを学ぶ。

12. その他（研修関連情報など）

新患・難治症例（入院・外来）カンファレンス（週 1 回）

呼吸器外科合同手術検討症例カンファレンス（週 1 回）

多職種リハビリテーションカンファレンス（週 1 回）

診断治療基礎・最新知見講義を研修 1 か月目に 3~4 回（週 1 回）